

第 23 回 PCV 漏えい試験検討会 議事録

1. 開催日時： 平成 28 年 4 月 18 日(月)13:20～15:20

2. 開催場所： 航空会館 204 会議室

3. 参加者：(順不同, 敬称略)

□出席者： 田中主査(関西電力), 上園(三菱重工業), 上田(関西電力),
梅岡(電源開発), 大石(東京電力), 大坂(日立 GE ニュークリア・エナジー),
吉川(東北電力), 楠本(九州電力), 小林(日本原子力研究開発機構),
斉藤(中部電力), 座主(北陸電力), 濱口(四国電力), 林(北海道電力),
堀水(原子力安全推進協会), 味森(東芝) (計 15 名)

□代理出席者： 戸倉(中国電力・井上代理), 中間(日本原子力発電・首藤代理), 井口
(発電設備技術検査協会・工藤代理) (計 3 名)

□事務局： 飯田, 大村(日本電気協会) (計 2 名)

4. 配付資料

配布資料

資料 23-1 名簿

資料 23-2 第 22 回 PCV 漏えい試験検討会議事録(案)

資料 23-3-1 正誤表

資料 23-3-2 数式エビデンス例

資料 23-4 T4u-BC 種 LRT 経緯

5. 議事

(1) 定足数等の確認

事務局から、本日の出席者数は、委員 18 名中、18 名出席で定足数「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(12 名以上出席)」を報告し、本日の検討会が定足数を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録の確認

資料 23-2 に基づき、前回議事録(案)を紹介した。一部誤植を改訂することで、承認された。

(3) 主査・副主査の選任

主査の互選を実施し、関西電力 田中氏が全会一致で指名された。副主査については、東京電力 大石氏が任命された。

また、代理出席も上記記載の方々が承認された。

(4) JEAC4203-2008 原子炉格納容器の漏えい率試験規程改正案について

○資料 23-3-1,23-3-2

資料に基づき説明を実施した。

以下のコメントが委員よりあった。

- ・この改定について他の規程及び指針が同様の対応とされるのではないか？
→本件については、他とは別扱いとして運用されることとなる。これは、本規程の記載内容は数式が非常に多く、他の規程とは異なること、誤記の大多数が数式にあること、その数式の誤記については印刷会社の使用するソフト変換により相違した表記となってしまうこと等、特殊事情があることによる。
従って、本誤記対策は他の規程及び指針に適用されない。
- ・本検討会に関わる資料はどの時点まで残っているのか？
→現時点では分からないが、調査すれば直ぐに分かる、後程連絡したい。

○今後のスケジュール

数式に関する誤記対策の工程は、内容的に問題となる部分が今後発覚する可能性もあるが、5月中のエビデンス集作成を目標とし、9月の規格委員会上程を目指す。また、本規格の改定については12月の規格委員会を目標とするが如何か？
→事業者側としては川内を目標として本指針の改定を目指したが既に稼働しており、2008年版で実施しているのが実情であり、2008年版で今後も進めても恐らく問題は無いのではないか。また、数式についても今後、疑義が生じる可能性もあり、焦って早急に進めるのは如何なものか？特に問題なく進められれば上記スケジュールかもしれない。

○資料の作成について

誤記対応の資料についてはメーカーさんはじめ皆様の協力が必要で、疑義が発覚した時や成果物が出来次第、レビューをメールベースで行い、形を作っていくたい。引き続き協力を御願います。

○資料 23-4

資料に基づき説明を実施した。

以下のコメントが委員よりあった。

・本件につきBWR側は如何か？

→少なくともBWRはB・C種がないので、A種でのこととなるがその圧力(2Pd)となると機器が塑性域になる可能性があるとの論を示すことになると思う。

・今後も継続して検討したい。規格への反映はまだその段階ではないと考えられる。

以上